

2022.08.14. なぜ神は私のような者を選び用いられるのか

ヤコブ 5 章 19~20 節

JD ファラグ牧師

今週の木曜日の夜、本当に楽しみです。「エレミヤ書」の学びに代わりに、放蕩息子のために祈る両親の祈りの力強い証を紹介します。その「放蕩息子」に、今、登場してもらいます。ガブリエルです。一拍手喝采ー

アロハ！ 私の名前はガブリエルです。まずは感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。天の父なる神が、その驚くべき御力、慈悲、恵みの証を分かち合う機会を与えてくださったことに感謝します。JD 牧師が今おっしゃったように、私は、LGBTQ のライフスタイルに夢中になっていました。それで家族も家も失うほどでした。18 年間、私は自分の性同一性に悩んでいました。18 年間、敵の嘘を信じていました。私は両親の愛よりも、世とその影響のすべてを信じていました。悪い事に、神とその御言葉よりも世を信じていたのです。今日、自由になったのを分かち合えることに興奮しています。一拍手喝采ー

敵の嘘から解放された自由、霊的な束縛から解放された自由、そして、私たちの主であり救い主イエス・キリストにすべての栄光を捧げられる自由です。聖霊と美しい両親の助けによって今週の木曜日、私たちは、神が不可能を可能にされたことを伝える機会を頂きました。私はまた、多くの人が、戦いに疲れ、かろうじて持ちこたえていることも知っています。神を信じ、主を信じ、天のすべてが、その様な人を応援していることを、知ってもらいたいと思います。お時間をいただき、ありがとうございます。木曜日、お目にかかれるのを楽しみにしています。神の祝福を。アロハ！ 一拍手ー

なんと素晴らしい！では特にオンラインで参加の方々に、いくつか注意点をあげておきます。午後 7 時ちょうどに開始します。通常、木曜日の夜は、賛美で始まり説教は 7 時 30 分から始めますが、今度の木曜日は違って、7 時ちょうどに始める予定です。私はガブリエルと、彼のご両親と一緒にここへ上がり、一時間半全てを費やす予定です。祈りの力だけでなく、神の私たちへの愛の力について語り合う、力強い夜になるでしょう。もし参加予定でいらっしゃるなら 7 時ちょうどに始めます。オンラインの方、ライブ配信が見れなければ、ホームページに掲載しますので、全編を見ていただけます。また、ユーチューブとフェイスブックにも全編公開予定です。私は、とても慎重に、祈りをもって言っています。どうなる事やら…。やってみましょう。とにかく木曜日の夜、ハワイ時間の 7 時です。楽しみにしています。

それでは「ヤコブの手紙」です。さあ〜今日で「ヤコブ書」を終えますよ。来週、携挙がありますから、「第一ペテロの手紙」は始められませんね。(今日の)最後の 2 節は、最高と言いたいところですが、そうでもありません。これは...今から分かることですが...あらかじめ読んで来られている人は、もう分かっていると思います。わ〜では、ここにいらっしゃる方で、可能な方はお立ちいただいて、無理な方は座ったままで結構です。私が読むのに合わせて、ついてきてください。19 節、聖霊によってヤコブが書いています。

ヤコブ 5

**19 私の兄弟たち。あなたがたの中に真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を連れ戻すなら、
20 罪人を迷いの道から連れ戻す人は、罪人のたましいを死から救い出し、また多くの罪をおおうことになるのだと、知るべきです。**

この手紙の最後に、明らかに欠けているものに気づきましたか？ こういう別れの挨拶がありません。「恵みと平和があなたがたにありますよう。」そうではなく、ただ、「多くの罪をおおうことになる。じゃ

あ、さよならっ！」それが手紙の終わりです。それには理由があるのですが、それについてお話しします。まずはお祈りしましょう。よろしければ、ご一緒をお願いします。

天なる御父よ、感謝します。お～、神よ、あなたはとても良い方、とても素晴らしいお方です。あなたは、私たちを愛されています。あなたがどれほど私たちを愛されているか、栄光のこちら側では計り知れず、理解することはできません。主よ、今日私たちの前にあるこの箇所、「ヤコブ書」の終わりのこの2つの節は、聖霊が教師・導き手になって下さる必要があります。すべての御言葉にはあなたの息吹が吹き込まれており、あなたが書くようヤコブに靈感を与えられ、理由があって記されています。私たちはその理由を知る必要があります、ですから、私たちはここにいます。私たちに見せたいものが何なのか、示していただけませんか？ あなたが聞かせて下さりたいことを、私たちの人生に語ってくださいますように。主よ、私たちは聞く耳を持ちたいです。ただ聞くだけでなく、心に留めたいです。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

ご着席ください。ありがとうございます。今日、お話ししたいのは、

「なぜ神は、キリストの兄弟姉妹の人生に私のような者を選び用いられるのか」

この箇所を教えるために自分の心の準備をしている時、ここで私が驚愕したのは、神は私たちを愛しているから、誰かを神のもとに連れ戻すために必要なことを何でもなさる、というだけではなく、神のなさるそのご方法です。言い換えれば、神はあなたのような人を用いることに選ばれ…誰かに指を指さないよう注意しています。つまり、あなたや私のような者がそのようなことになるのは、考えてみれば、主御自身にしかできないことです。このことについて話します。しかしこの箇所で、ヤコブが聖霊によって、なぜ神は、私たちのような者を他の人の人生によく用いる必要があると思われるのかという問いに答えています。その理由は2つ以上あります。神が、ご自分で働かれるのではなく、私たち人を道具として使うことが賢明だとされる理由が2つあります。そして、最初の理由が19節にあります。

「神だけにすべての栄光が帰される」

さて、これは重要なことです。見逃さないでください。ヤコブは、キリストにある兄弟姉妹を連れ戻すように勧めています。彼らは既に救われています。イエス・キリストを信じ、従う者です。なぜこれが重要なのでしょうか？ なぜなら、もしあなたが、救われていながら真理から迷い出た信者を、主のもとに連れ戻す励ましと見なさないなら、この2つの節にある全ての意味を見逃してしまうことになるからです。この人たちは、キリストにある兄弟姉妹です。かつて、主とともに歩んできた、新生した信者たちですが、何らかの理由で主から離れてしまったのです。神は、人を道具に使うことも御出来になるが、タルソスのサウロにされたように使わないことも選択されます。それは一つの例に過ぎません。しかし、この箇所はそういう事例ではありません。その理由を説明したいと思います。その理由は、神は、土の器を選んで用いられます。あるいは、言わば曲がった棒で、直線を引かれます。それは、ただの棒ではありませんよ。その棒は、神の御手によって用いられる道具です。私たちは土の器であり、曲がった棒なのです。神が曲がった棒を取られるとき……私たちの誰もが手を挙げるはずですよ。私たちは皆、あの曲がった棒、墮落した不完全者です。神は不完全なものをを用いて、完全なことをなさいます。神は平凡を用い、非凡を行われます。神は、自然なものをを用いて、超自然的なことをされます。主がそれをなされた後、あなたはその”人の道具”を見て、「ひ～！それは神の御業に違いない。」「そうだよ。」「君じゃない。」「分かってるよ。私を見てみろよ。」これは、これは…OK。例をあげます。お付き合いください。医学的な例なので、注意しないといけないのですが、他により良いものがないので。外科医が手術をするとき、手術器具を使いま

す。今、あなたは回復しています。手術の後、手術室に入り使われた器具がありあなたはその器具に感謝し、賞賛し始める。そこに偉大な名医が来て言います。

「あの～それはわたしが使った道具で、手術は私がしたのですよ。なぜ手術道具の手柄にするのですか？」わたしだけが、全ての栄光を手にしします。」そして神は、そのためにこの世の愚かなものを選ばれるのです。(JD 牧師挙手。) よかった！手を挙げなかった人たち、あなたのために祈りますよ。

強い者を恥じ入らせるために、この世の弱い者を選びました。(第一コリント 1:27)

強い者を恥じ入らせるために、この世の弱い者を選びます。なぜですか？神だけが御出来になれることだから、愚か者や弱い者が手柄にしようと思っても、笑っちゃうのです。ですから神は私たちを見て、仰います。

「わたしはあなたを用います。なぜなら、人々はあなたを見て、あれは神の御業に違いないと思うからです。だから、栄光は主にあります。だから、わたしはそんな器を選び、用います。そう、欠陥品です。壊れています。曲がった棒です。なぜなら、人々はその道具を見て、"あれは主に違いない"と気づくのです。」私は以前にもこのことを伝えていますが、おそらくもう一度伝えるのによい機会だと思います。うんざりしないでくださいね。私が受け取る側として最高の賛辞の1つは、誰かが私のもとへ来て、こう言うときです。「すごい！神は、あなたのような人を使ってくださるんだ。」—(笑)— これは、私を祝福するものです。それが重要です。もし私が、ご立派な履歴書があったら、(私は持ってませけどね...)

あなたを驚かせ、結局、名前の後のそういう経歴を見ます。私には書くことがないので、名前の代わりに名前に文字を入れてます。「JD」は、ただ文字がカッコイイと思うから使うだけで、「JD」はもちろん、「イエスの弟子」の略です。しかし、あなたは私の手柄に出来ません。私がしたのじゃないから。その栄光は、、、だから神は私のような人間を選ばれるのです。あなたは私を見て言う。

「神が彼を通して語ることができるなら、神は私を通して語れることもできる！！神が彼を用いられるなら、だって彼のような人は...」あまり深く言いたくはないのですが、そのことについて、あまり早とちりして笑わなでください。「神が彼のような人を用いるのなら、私にも希望がある！！」その通り！それは私じゃないからです。私は、主の御手の道具に過ぎません。私はマウスピースに過ぎません。私はメッセンジャーに過ぎないのです。ですから、神だけがすべての栄光を受けられます。私がふと考えてるのは、パウロが…。再度、コリント人への手紙を参照しますが、パウロはコリント教会に、

「神はあなたを、他の誰かの人生のために用いられる」と言っています。ですからあなたがたは、今経験している事を経験しているのです。神は、あなたが神から受けた慰めで、あなたが経験したことを経験する他の人々を慰めるために、あなたを選び、用いられます。

「わたしは、あなたを用い、わたしがあなたを乗り越えさせた事を、誰かの人生で、あなたがその人を励ますのです。わたしは、あなたをわたしの手の中の道具とし、あなたが経験し、わたしから受けた同じ慰めと励ましで彼らを励まし、慰める為あなたを用います。わたしがその栄光を手にしします。わたしだけが栄光を手にしします。」私が好きなのは、あともう1つ。さっと終えて、次に進みます。言い方はマズいですが、ここから少し厄介になります。神がこの神の教会になさったことで、私が大好きなのは、当たり前と思うかもしれませんが、御出来になれたのは神だけです。説明しましょう。

この美しい教会の建物に人々がやって来ます。そして、つまり、「うわー、美しいー。全てが主の栄光のため。」で質問が、修辭的な仮定の話で、質問は、「わお～あなたがたどうやってしたの？あなたがたが、どうやってこれをしたのですか？どうやってこれを実現したのですか？」私たちの答えはこうです。

「へへへ、へっへ～ 私たちしてません。神がなさったのです。ちょっと待って、私たちがこれをやったと思ってるの？ はっ、はっ、違います！ 神がこれをされたのです。」「ええ、これは、これは美しいです。」「知っています。」「どうやってしたのですか？」「私たち、してないんです。神がなさいました。私たちがしたことといえば、神にお委ねしたことです。」またまた簡略化しすぎですが、私たちはただ神のご方法の邪魔をしないようにしただけです。「神様、私たちは、あなたお手伝いをしたいんです。」「わたしを助けて！ ジャあ助けしないで。邪魔しないでください。そうすればわたしは、わたしのやり方で、わたしの望むことができます。なぜなら、最後には、わたしだけが、わたしだけが行ったことに対して、すべての栄光を受けるからです。」なので、私たちは...できないのです。あなたは今までの人生で、とても複雑で不可解な、つまり、不可能と思う状況に陥ったことはありませんか？先ほどガブリエルが言ったのが大好きです。「不可能なことを可能にする」神は、不可能を可能になさる神です。自分の人生で確信しているのが、神は私に、不可能な状況を許されるのは、神にとって可能だからです。すると私は神のもとへ行って、両手を上げて言います。「神様～、これは私には不可能です！」すると、天の御声が聞こえて来ます。「そろそろ時間か。この男は鈍いよね。」それがあなたを、自分自身の終わりに連れて行かれる理由なのです。「不可能なのですね？ わたしが、もうしてもいいですか？」「わかりました、主よ。あなただけが、すべての栄光を手にするお方ですから。」さて、私たちには問題があります。実は問題は1つだけではありません。問題は、迷い出た人を連れ戻すために神が私たちを用いられるとき、「優しく行わなければならない。」私自身、主との歩みの中で学んでいることの1つに、何をするか、何を言うかよりも、どうやってするか、どうやって言うかが重要なのです。私たちは、正しいことを間違った方法で、正しいことを間違った心でしてしまうことはよくあります。そして、悲しいことに、純粋に仲間を助けたいと思った善意のクリスチャンが、結局、善よりも害を及ぼしてしまうことが多いのです。つまり、確かに善意ではあるのですが、やり方がまずかったのです。正しいことをやっているのに、正しいやり方で行っていないのです。これは「ガラテヤ人への手紙 6章 1節」です。再度、クリスチャン兄弟姉妹の話です。この人たちは信者です。

ガラテア 6

1 兄弟たち。もしだれかが何かの過ちに陥っていることが分かったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。

箴言 (25:15) に「**柔らかな舌は骨を砕く。**」とあります。デリケートな状況だからこそ、とことん優しく、デリケートに。続けて、「また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい。」と言っています。

「マタイの福音書 7章」これはとても身近な聖句です。私はいくつかのことを指摘したいのですが、たぶん最初は、そう簡単には分からないでしょう。イエスが話し、教えておられます。1節、

マタイ 7

1 さばいてはいけません。自分がさばかれたいからです。

2 あなたがたは、自分がさばく、そのさばきでさばかれ、自分が量るその秤で量り与えられるのです。

3 あなたは、兄弟の目にあるちりが見えるのに、自分の目にある梁には、なぜ気がつかないのですか。それに気づかなかったの？

マタイ 7

4 兄弟に向かって、『あなたの目からちりを取り除かせてください』と、どうして言うのですか。見なさい。自分の目には梁があるではありませんか。

5 偽善者よ、まず自分の目から梁を取り除きなさい。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からちりを取り除くことができます。

目に関しては、本当に気をつけなければいけないと思いませんか？ 誰かが私のところにやって来て、「JD 牧師、あなたの目に何かが付いている。」と、指を突き刺し始める。「何かがある...」「止めてくれ～！ 怪我をさせる気？」「本当に、ほら、私が...」ペンチを持ってきて、「私に取らせて...」大げさなのはわかっています。「目にチリがある。取ってあげるから、じっとしてて。」いやだ～！！

ところで、どうしてあなたはそのチリが見えるの？ あなたには視界を遮る電柱がある。だって、自分の目に梁があるんだから。ところで、原文原語で、「speck (チリ)」という単語は、他の翻訳では「丸太」と訳されています。これは、兄弟の目の中に見えるチリは、自分の目の中にある丸太/梁から生じたものという考えを含みます。そうすると、ちょっと様相が変わりますよね？ この表現を聞いたことがあるでしょう。聞いたり、言ったりしたことがあるはず。「お互い様だよね！」例えば、ある人がこう言います。「兄弟、あなたはプライドが高いね。」おお！ そのような人とは、なかなか打ち解けることができないものです。「その目から、プライドのチリを取り除くのを手伝わせてくれ、兄弟よ。」それに対して、公平を期して、私たちはこう尋ねられます。「あなたの中に、チリのもとになる梁のプライドがなければ、どうして私の目の中にあるプライドのチリが分かります？」自分もそうだから人のこともそう思うのです。つまり、どうして分かるのですか？ そう、チリ。つまり、あなたは...それは、キリストにおける兄弟姉妹に対し、クリスチャン人生で、してしまうことではないですか。拡大鏡をもって.... なぜか？

私たちの罪は、いつも他の人のが恐ろしいものに見えるものです。拡大されます。というか、プライドがあるなんて、どうやって分かるのですか？ なぜなら、私は、プライドの博士号があるからです。プライドがどのようなものか知っています。プライドがどんな匂いかを知っています。お互い様。だから、私は、私は.....お付き合いください。チャック・スミス牧師が、今は、もちろん主のもとにいますが.... ある会議で、実際に起こったことから、最も力強い事例を紹介してくれました。ある交差点で事故があり、救急隊員はもちろんのこと、警官も来ました。救急隊員は負傷者の傷の手当てをするため、警官は誰が原因かを調べるためにいます。彼が言いたかったのは、キリストの体（クリスチャン）には、そのプライドのかげらを指摘しようとする警官が多すぎるということです。誰が悪いんだ？ 誰のせいだ？ 人の傷を気遣う救急隊員をもっと増やさないとはいけません。真理から遠ざかっている兄弟や姉妹がいて、彼らの人生に、プライドのチリがあるのに気がつき、それがどの様に見えたとしても、その前に、自分自身の人生を検証してみてください。パウロがガラテヤの信徒に書いているように、あなた自身が結果的に誘惑されて落ちてしまわないよう、よく注意すべきなのです。イエスは、仰いました。

「そうするとき、非常に繊細に、非常に注意深く、非常に優しくしなさい。さもなくば、あなた自身が大きな害を受けます。」ちなみに、それをする前に、自分の目の中にある梁を対処する必要があります。あなたの人生に、プライドがあるからです。自分のプライドという梁を取り除いて、それから、兄弟の目の中にあるチリの話をししましょう。なぜなら結局のところ、あなたは自分がプライドの高い兄弟を助ける存在だと思い込んでしまっているからです。間違いなくあなたは、自分はとても謙虚で、プライドなど無いと信じているからです。あなたは自分の謙虚さをとても誇りに思っていて、自分のプライドについては謙虚、ではないですか？ プライドの事を取り上げるのは、私自身がその看板だからです。ある牧師が説教の後、信者の誰かから声をかけられた、私のお気に入りの話があります。その兄弟は彼のところに来て言いました。

「牧師さん、あなたはとてもプライドが高いですね。」彼の返事は、「兄弟、あなたはその半分も分かっていませんよ。」お～、なるほど、私ならそんなふうに答えないでしょう。私なら言うでしょう。「私が？じゃあ、あんたはどうなの？」「自分のことを棚に上げてよく言うよ！ 自分を守る事ばかりですね。わ～」あ”～気にしないでください。本当に私は罪を示されていますので。あとは聖霊にお任せします。

2つ目の理由です。これに、今日の残りの時間をかけたいと思います。これは、神が信者の人生に、あなたや私のような人を用いることを選ばれるもう1つの理由です。「信者が死から免れる。」私は「免れる」という表現を選びました。多くの人が、罪びとの回心と、死からの救いだと、ここの箇所を誤解しているからです。「待ってください。彼らは既に救われていると言ったのではありませんか。」ええ、そうです。彼らは既に救われていますが、真理から迷い出て、後退したのです。彼らは既に救われています。

「ちょっと待ってください。死から免れる？」「それだと、救われてないように聞こえます。」いいえ。この節は、真理から迷い出てしまい、早死に向かっている信者を救うことについて述べています。

「人の目にはまっすぐに見えるが、その終わりが死となる道がある。」(箴言 14:12)

ここに、あなたが愛し、本当に心から気にかけている人がいます。しかし、彼らが間違った道を進んでいるのも知っています。あなたはそれを見ています。彼らは、ますます主から遠ざかっていく。彼らは主を知っているというのに。彼らはまだ主を愛しています。彼らはただ、主から迷い出てしまったのです。そして、あなたが彼らを愛しているから、神は、あなたを用いようとしておられます。つまり、考えてみてください。愛していなければ、気にかけていなければ、心配しないでしょう。どうぞ～どうぞ～って感じで、「私は気にませ～ん。」いいえ、私はあなたをとっても愛しています。私は、あなたがこのような道を進み、その結果、不必要に苦しむのを黙って見ているわけにはいきません。だから、ヤコブは、あなたが多くの罪から彼らを救うことになると言っているのです。愛は、多くの罪を覆います。あなたは彼らをとっても愛していて、多くの罪から彼らを救いたいのです。そして、悔い改めなければ、いつもつらい結果になるのです。だから、神はあなたを用いられるのです。踏み込まなければなりません。何か言わなければならない。ちなみにこれが愛です。聖書の中で最も背かれた聖句の一つは、「マタイの福音書 18章 15-17節」だと思います。3本柱で構成されています。

- 1) 誰かがあなたに罪を犯したとき、あなたは一對一でその人のところに行き、その関係修復を試みる。
- 2) 彼らが関係修復を受け入れなければ、2人以上の証人を連れてくる。
- 3) それでも受け入れない場合、教会の指導者を連れてくる。

それでも受け入れないのなら、その人たちとはもう何の関係もない。

「マタイの福音書 5章」はどうでしょう？ あなたは、キリストの兄弟姉妹に何か不満や恨みがある。そして教会で奉仕している。あなたは祭壇に捧げものを置いて、出来るだけ早く行って、兄弟姉妹と仲直りしなさい。さもなくば、サタンが…。つまり、すべてを犠牲にしてしまいます。翻訳によっては、最後の1円までもが。早く解決して、それからまた戻ってきて捧げものをしなさい。キリストにある兄弟姉妹をどう扱うかは、神の御目から見て非常に深刻なレベルにあるという印象を受けませんか？ そうなのです。だからこそ、ヤコブが言うように、彼らを死から救うことができるのです。あなたは実際に彼らを、、救っているかもしれません。もちろん彼らは救われています。しかし、早死にすることから救っているかもしれないのです。

さて、信者が早死にすることがあるのかどうか、疑問に思う人、「第一コリント人への手紙」、特に、11章を見れば一目瞭然です。皆さん分かりますか？ 彼らがしていたことで、キリストの体の兄弟姉妹に接

していたことのために、実際に病気になり、そのため早死にする人もいたことが。

ところで、この 2 つの節ですが、これが牧師が聖書を節ごとに教えない理由ですよ。これは難しいですからね。しかし、それが真理なんです。そして、この問題に戻りますが、いや、、、上手に、、、ヤコブ、親身になって言ってくれないの？ パウロでさえ手紙の最後は、「あなたがたに、恵みがありますように」と兄弟に挨拶しますが、ヤコブは違います。「早死から免れなさい。愛は多くの罪を覆います。」で、終わり。「待って、別れの挨拶も恵みもないの？」「はい、ありません！」理由があつて唐突に終わります。それは、彼が言いたいことの深刻さを強調するためです。つまり、出来るのは、間違いなく、出来ると言えるでしょうが、原典の章と節、写本には決してありませんが、実際にこれに基づき自分の生活、自分の教会で「ヤコブの手紙 6 章」を書くことができます。だから、そのため唐突に終わるのです。さて、私たちはここで問題に対処です。なぜなら、これは神の御目に生死に関わるほど深刻なレベルに上げておられるからです。そうになっています。そして、これは難しいことで、ヤコブの手紙はここで唐突に終わりますが、これは私たちを不要な苦痛から救うため生死の真理なのです。あなたには大切な人がいます。その人が間違った道に向かっていて、あなたはその人を、その人の愛が故に、多くの罪の結果から救いたいと思っています。その人に対するあなたの愛ゆえに。そしておそらくもっと重要なのは、彼らを早死にから救いたい。なぜなら、キリストの体を守るため、また彼ら自身を守るため、神がクリスチャンを早く家に連れ帰る必要があると見なされる場合があるからです。彼らは救われていますよ。しかし、神は彼らを救うため、早く家に連れ帰る必要があるとお考えになるかもしれません。それくらい深刻な問題なのです。私がしたいのは、私は皆さんを励まし... もう一度やってみます。「第一コリント人への手紙 11 章」を一緒に見ていただけませんか。27 節から 32 節を読みたいと思います。

ところで、私たちが聖餐式を毎月第一木曜日に行っている理由、「第一コリント人への手紙 11 章」を使わないのには理由があります。何も問題はありません。私の知り合いの牧師は使います。それはそれでいいんです。私が使わないのは、これが理由です。パウロが主の晩餐について書いている文脈があるからです。だから、私はいつも「ルカの福音書 22 章」を使います。使徒パウロが、主の晩餐について書いています。27 節、

I コリント 11

27 したがって、もし、(聞いてください) ふさわしくない仕方でパンを食べ、主の杯を飲む者があれば、主のからだに血に対して罪を犯すことになります。(しかし、)

28 だれでも、自分自身を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。

その理由が 29 節です。

29 みからだをわきまえないで食べ、また飲む者は、自分自身に対するさばきを食べまた飲むことになるのです。

そして、30 節に、さらに悪いことが書かれています。

30 あなたがたの中に弱い者や病人が多く、死んだ者たちもかなりいるのは、そのためです。

"死"です。待ってください。何ですって？「ふさわしくない仕方でパンを食べたから？」そうです。「キリストの体をわきまえなかったから？」そうです。「主の晩餐で兄弟姉妹にしたことが原因で？」

そうです。「彼らが体を壊し、何人が死に至ったのは、ふさわしくない仕方で聖餐式をしたからだと言うのですか？」そうです。いや、待ってください。私が言っているわけではありません。神の御言葉がそう仰っています。そしてパウロは、こう続けます。だから、私はこの節で聖餐式をするのは嫌なんですよ。

31 しかし、もし私たちが自分をわきまえるなら、さばかれることはありません。

32 私たちがさばかれるとすれば、それは、この世とともにさばきを下されることがないように、主によって懲らしめられる、ということなのです。

ここで整理しておきましょう。こう仰る方もいらっしゃる。「お願いします。この辺の事情が知りたいんです。」OK。初代教会で、アガベの祝祭と呼ぶものがあり、愛の祝祭と愛称していました。この当時、初代教会で集まり、パンと杯を共に与かります。しかし、それはまた、、、比較をお許しいただきたいのですが、こんにち私たちは、ポットラックと呼びます。彼らは盛大な祝宴を開き、共にパンと杯を分かち合いました。しかし、コリントには様々な職業の人たちがいて、それぞれ徒党を組んでいました。徒党を組むという意味分かりますか？「私たち4人、それ以上はだめ。私のテーブルには座れないよ。ところで君は、愛の祝祭に何を持って来たのだい？」そして、当時奴隷もいました。ちなみに当時、奴隷の割合は、70%くらいだったそうです。ローマ下でクリスチャンはまだ奴隷でした。そして、その内の何人かは、あえて言えば、そのほとんどが、それが一週間で唯一のまともな食事だったのです。

そして、彼らはそれを楽しみにしていたのです。食べるだけでなく、、、皆さん、理解する必要があります。特に、この文化では、こんにちでも、地元ではまだ少し残っています。しかし、すべてが食を中心としていて、現代の私たちにはそれが欠けています。というのも、当時の考え方は、「a common union/共通の結束」だったからです。中東では、誰かとパンを食べると、その相手には、死ぬまで忠誠を誓うこととなります。つまり、あなたの中にあるパンは、私の中にあるパンと同じ。私たちが飲む杯は、私が飲む杯と同じ。なぜなら、私たちは1つ。a common union：共通の結束、Communion：聖餐式 なのです。

そして彼らはやって来て、ちなみに、「箴言」にあります。話を逸らせるつもりはありませんけど、私の賜物です。「箴言」に、

「屋上でパンくずを食べるほうが、喧嘩している家の中でプライムリブを食べるよりまし。」(箴言 17：1 参照)

ふふふ言ったでしょ、賜物だって。そこには、生理的・文化的躍動感が関係します。そう、食べると絆が生まれますよね。そして、食べると.....これがこんにち、コンフォートフード(快適な食べ物)と呼ぶものです。誰かと一緒に食事をする、神から与えられた化学物質が体内で放出されます。食べるだけでも、ドーパミンやその他のものが出てきて、気持ちよくなるし、そうなるのです。だから、異邦人は決して、、、いや、逆に言うべきでしょう。ユダヤ人は、決して異邦人と一緒に食事をすることはありません。それはあなたが彼らとパンを食べることで生まれる絆に意味があります。その文化の中で食事をするのは、基本的に「私たちは一つ、私たちは一つ。」という宣言でもあったのです。そして、私たちの文化では、それがありません。あなたは誰かをランチに誘います。なぜ笑うのですか？ランチには誘わないのですか？それはひどいですね。あなたはランチに誘うべきです。今ならまだ、できますよね？でも、一緒に食べてると、ただ一緒に食事をするだけでなく、一緒に親睦を深め、絆が深まります。ここで彼らはこの祝宴に参加し、奴隷たちは、ポットラックに何も持って来られる余裕がありません。しかも、一緒に食べることが許されていません。彼らが徒党を組んでいるから。これが皆さんのギアを固まらせ、ハードディスクを壊してしまうでしょうが、彼らはワインを飲み、愛の祝宴で酔っぱらっていたのです。なんでそんな目で見るとですか？ご自分で聖典を検索してください。彼らは、酔っぱらい、食事をして、そして、、、あちらに飢えた奴隷、キリストにおける兄弟がいます。そして、パウロは、非常に率直に彼らを叱りつけ言います。

「家に帰って、そうしなさい。酔っぱらいたいのですか？ 家で酔っぱらいなさい。何でもいいよ！」
彼はそんな風に言うてはいませんが、でも、ポイントは分かりますね？ 彼らはここで、愛の祝宴をあざ笑う事に変えてしまったのです。そして、彼らはキリストの体をわきまえることができなかつたのです。そして、その結果どうなつたのでしょうか？ その結果は、まさにヤコブが書いている通りでした。彼らは病気になる、中には死んでしまう人もいました。神がこう仰っておられるようです。

「わたしは、猛烈にわたしの体とわたしの教会を守ります。もしあなたがわたしの教会に危険な脅威をもたらすなら、ええ、あなたは救われましたが、わたしはあなたを排除します。わたしはあなたをここに連れてきます。わたしはあなたを惜しみますよ。わたしの体、わたしの教会を守るためです。」

聖餐式は、確かにお祝いですね。しかし、それは同時に非常に深刻なことであります。そして、私たちが教会として聖餐式を日曜日から木曜日に移す決断をした理由の1つは聖餐式は信者のためだからです。日曜日の朝、教会には、必ずしも生まれ変わった信者しかいないわけではありません。そして、ふさわしくない仕方で主の食卓につく人と一緒にお祝いしたくないのは確かで、また私の責任だからです。これはキリストの体であり、象徴するのは、パンは体で、杯は血潮です。そして、これは非常に深刻な問題で、神はそれを非常に重く受け止めておられます。だからそのレベルを上げておられます。キリストの体を見分けることなく、キリストの体の中で互いにどう接するかが故にです。このレベルまで上がるのです。ですから神は、あなたや私のような者を選ばれ、真理から遠ざかっている人の人生のため用いられるのでしょう。彼らを取り戻すために。優しく、愛情を持って。優しく、親切に、敬意を持って、思いやりを持って。彼らを取り戻す。なぜなら、あなたには決して分かりません。彼らやキリストの体を、その結果起こりうる計り知れないダメージから、守ることができるかもしれないのです。自分の人生を考えてください。多くの罪から生じるすべての結果。このように締めくくります。これは聖霊だと思います。実はこう考えたのです。メモにはありませんが。ダビデのことを考えます。彼は、なんとというか、その自分の栄光にあぐらをかいているようなところがあったんです。そして、王たちが出陣する戦いの時、しかしダビデは判断したのです。「私は十分勤めてきている。私は、ちょっとくつろごう。」彼は後退している状態ですね。そして、そこに、近くで一人で入浴している女がいる。バテ・シェバです。私はすべての結果について考えます。ダビデの周りにいる人たちは、あらゆることに挑戦し、こんな風には何も止めなかつた。「ダビデ、ダメダメダメ、いけません。彼女の夫のウリアは、あなたがいるべき戦場にいるのです。」私たちは時に、自己愛のせいで止めます。彼らが迷ったとき、主のもとに戻そうとすることで、そのことが分かります。彼らとの友好関係を危険にさらすこととなりますよね？ それを自己愛と呼びます。私たちは相手よりも自分を愛しているから、相手に真実を語ろうとしません。しかし、ここで問題は、別の「箴言 27:6」を引用すると「愛する者が傷つけるのは誠実による。憎む者は多くの口づけでもてなす。」つまり、真の友人なら、私が聞きたいことだけでなく、聞くべきことも教えてくれるはずで、たとえそれが、私たちの友情と関係を危うくするものであってもです。あなたが真実を語っているのは、愛ゆえに、愛があるからこそです。「わあ、そう言ってくれるほど私のことが好きなんですね。あなたは自分自身より私を愛してくれています。少なくとも、あなたが自分を愛しているのと同じくらい、私を愛してくれています。あなたは私を十分愛していて、それを言うほど気にかけてくれています。」

そして、この人たちはダビデに何か言おうとしました。「ダビデ、それをしてはなりません。」そして、そんな思いやりのある仲間たちを吹き飛ばして、彼はとにかくしてしまいます。彼が免れることができたはずのすべての結果が生じます。そう、彼は神の恵みによって赦されました。神は赦す神です。神は愛に

満ちた神なのです。しかし、彼の残りの人生、彼が家族や子どもたちに受けた言いようのない苦痛を知っていますか？ 彼の息子、アブサロム。アブサロムの異母兄がアブサロムの妹に辱めを与える。そして、ダビデは、、基本的には、、「あの～ちょっと待ってください。あんなことしておいて、よくもまあ。」

きっと敵がそれを逆手にとって、一生を棒に振ったでしょう。「父さん、どの口が言うの？ 自分がしたことを見なさいよ。」そして「詩篇」を読むと、彼のために、彼とともに泣いてしまいます。痛み。彼はそれを免れることができたはずなのに。質問させてください。自分自身にもです。

現在、あなたの人生で、神があなたの心をととても優しくうながし、愛のゆえに手を差し伸べ、愛を持って真理を伝えるよう仰っているのは誰ですか？ ええ、最初は恨まれるでしょうけど、友達をなくし、SNSやその他もろもろでブロックされたりするでしょう。しかし、いずれは感謝されるでしょう。また逆に、最初は、あなたが聞きたいことだけを話してくれれば、私はそれを感謝します。「わあ、ありがとう。もっと言ってよ。」でも結局は、皆さん分かりますよね。彼らに恨まれます。

「どうして教えてくれなかったの？ どうして本当のことを教えてくれなかったの？」「お～、SNSで友達を外されるのが嫌だった。あなたに嫌われたくなかったからです。」友人から傷つけられるのは忠実の証です。最初はあなたを拒絶し、嫌い、悪口を言われることもあるかもしれません。「よくもまあ、そんなことを。」今や彼らの責任です。でも、本当に愛してるなら...今、あなたの人生にいるのは誰ですか？ 彼らが道を踏み外し、背を向けているのを目の当たりにして、その道を進み続ければ、どうなるか分かっているはず。そして、ここにいるあなたは、彼らをととても愛しているからこそ、とても辛いのです。そして、彼らがそのような道に進むのを見て、無力感を感じていて、あなたは何が起こるか分かっている。そして、愛するがゆえに、それを免れさせたいと思う。あなたの人生の中で、それは誰ですか？ あなたは、寛大に、優しく、彼らに手を差し伸べ、彼らへの愛が故に真実を語りますか？ 私が誰にも言われたくないのは、「なぜ私に言ってくれなかったの？」です。実は確信がありますが、その逆が問題です。「もっと違うやり方があったのでは？ だって、あなたはまるで...」とにかく、私の問題はこれで十分です。言いたいことはわかると思います。あなたの人生の中で、それは誰ですか？ あなたは、彼らを連れ戻し、惜しむほど気にしていますか？ この唐突に終わる、ヤコブが聖霊の導きで書いたこの手紙にある通り。カポノ、上がってください。ご起立ください。祈りと賛美で締めくくります。おお、わお～。主よ、厳しい内容ですが、良い事です。良い事です。難しいけれど良い事です。私たちはこれを聞く必要があります。主よ、私たちはこのことを心に留める必要があります。主よ、悲しいことに、私たちはクリスチャンとして、広い意味でこう祈り、言いますが、世の考え方に巻き込まれてしまったような気がします。とても肉欲的で、とても世俗的で、あなたはそれを望んでおられません。寛容に受け入れ、愛することを望んでおられます。しかし、主よ、パウロがコリント人への手紙で言ったように、あれは愛ではありません。主よ、私たちは、愛するその人を連れ戻すため愛をもって真理を語るために、あなたに選ばれる者になりたいです。そして「あ～嫌われたかな」という心配をせず、多分私は、もう嫌われていると思います。でも、私は彼らを愛しています。あなたの下へ連れ戻したいです。主よ、この厳しい御言葉を感謝します。必要な真理です。今、私たちの生活にそれを祝福してくださいますように。イエスの御名において祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7